



「千曲川の朝」 水彩 F6

プラチナアート大賞コンテスト 入選

小雪が舞った朝、常田新橋の上から見た朝焼けです。冬の朝の寒さは厳しいけれども、しばしば朝焼けの美しさに遭遇するので早朝ウォーキングの励みになります。

健太郎作



「ミカンとブドウ」 水彩 F4

机の上にミカンとブドウを並べたところしばらく躊躇した後にやおら描いた絵です。



「ひなげしの丘」 水彩 F6

近所で毎年ひなげしが群れ咲きます。赤一色です。ひなげしに囲まれたこんな丘があったら素敵だけど、ちょっと毒々しくて圧倒されてしまうかもしれません。



「昔日」 水彩 F6

散歩中に見かけた廃墟。手入れされていない枝や崩れかけた土塀が周囲の住宅と対照的で物悲しく、ここに昔どんな生活があったのだろうかと思いをはせました。



「13 歳」 水彩 F4

SMILE アートコレクション 入選

思春期の入口で、多感さを秘めて はにかんだようなかすかなほほえみを、いとおしく思って描きました。



「ドクダミ」 水彩 F6

道路と石垣の間のほんのちょっとの土に咲いたドクダミ。直前の雨に濡れて沈んだ色になった石と対照的に、ドクダミは葉も花も輝いていたたかだなあと思いました。

健太郎作



「家」 クレヨン F4



健太郎と、この春我が家に
来たチワワのラテです。



「写経 般若心経」

字を書くのは嫌いではないみたいで、身近な紙切れにもよく何か書いています。案外字はキレイだと思います。



「いろいろ」 水彩 F4

パレットの中の絵の具をいじっているなど見ていたら、
こんな作品が出来上がっていました。



墨 30 × 30 センチ

真田幸村ではないかと思います。



「緊張」 水彩 20 × 20 センチ
何かにふっと気を取られた時の表情。



「畑の小玉スイカ」 水彩 F4
藁の上で日差しをいっぱい浴びて輝いています。去年はカラスに狙われました。今年人間の口に入ることを願っているところです。



「道ばた」 水彩 F6
「部屋に飾りたい展」入選
(9月に行われる本審査待ちの状態です)
散歩途中でふと道下を見ると、クローバーが咲いていました。そのうち除草されてしまうだろうけど、今を一生懸命咲いている姿が何だかいじらしいなと思いました。



「稲刈り」 水彩 F6
ハゼかけが終わるとほっとしたものです。このあと、スズメよけの網をかぶせたのですが、これが絡まってしまって難儀しました。



「開く間際」 水彩 F4
ハスは、つぼみが好きです。
みずみすしさと、今にも咲こ
うとする力を感じます。



「昔日の軒先」 水彩 F4
干し柿は、まだ乾燥しきらないのが
好きです。こどもの頃、軒先から
やわらかい柿を失敬してよく母親に
怒られました。



「雨上がり」 水彩 F6
一枚の絵 全国日曜画家コンクール 入選
山を隠すような大量の霧で背景がぼやけ、耕された土の
荒々しさを印象強いものにしていました。

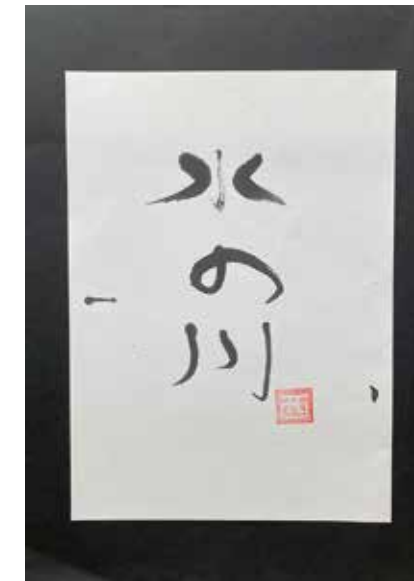


「時の蓄積」 水彩 F8
散歩途中で見かけた今にも崩れそうな小屋。つかい棒が目だっ
ていました。後日ここを通ると取り壊されて更地になっていました。

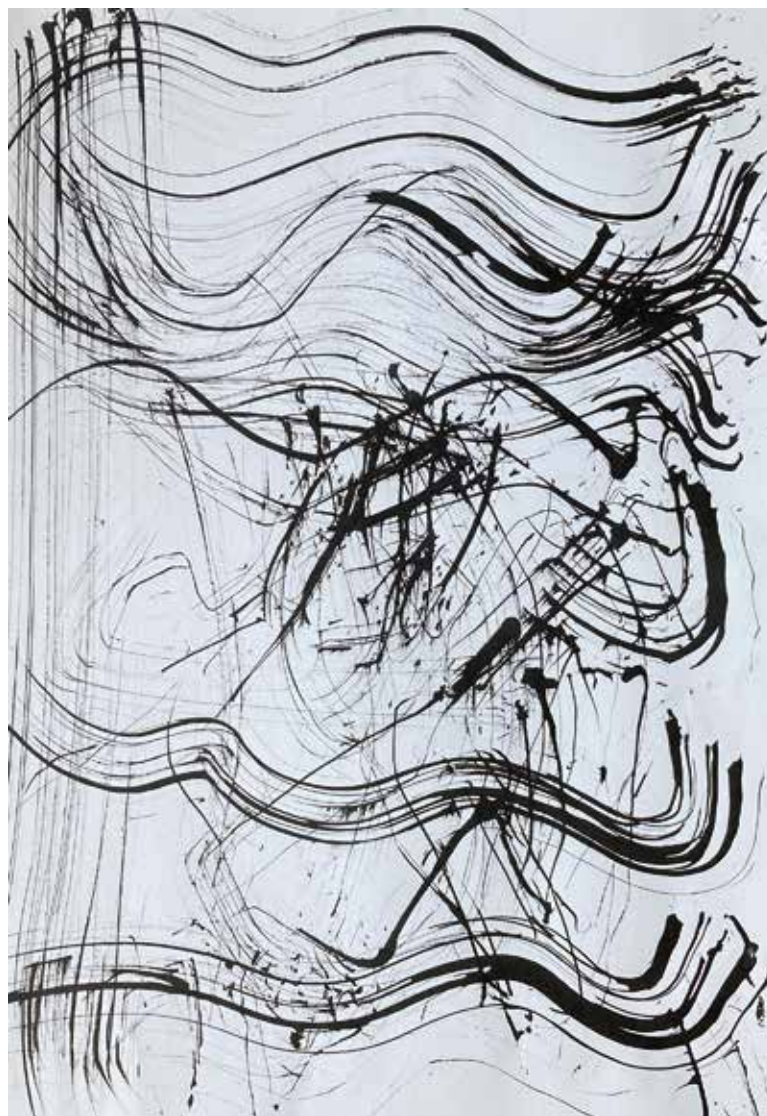
健太郎作



「ミカンとバナナ」 水彩 F4



43 × 31 センチ



「無題」 54 × 114 センチ



「踊るネギ坊主」 水彩 F6

雨に打たれたネギ坊主があちこちに広がって風に揺れ、まるで楽しく踊っているようでした。



「錆ゆく階」 水彩 F8

閉館したホテルの裏手で見かけた非常階段。今は人気もなく、錆びていくにまかせた大きな建築物がなんだか物悲しくて、思わず写真を撮りました。